

1 取組結果概要

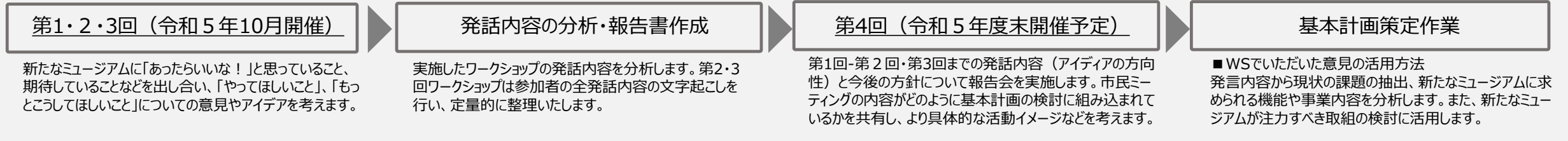
実施方法	市民ミーティング（ワークショップ形式）	WEBアンケート
実施目的	地域や市民活動の視点にも着目し、市民とともに新たなミュージアムを考えるため	幅広い層の意見を収集・整理・分析し、計画に反映させるため
参加者	新たなミュージアムに関心を持つ方々	博物館・美術館等に関心のない層を含む、幅広い属性の方々
	<ul style="list-style-type: none"> 参加者数：計56名（第1回：21名、第2回：18名、第3回：17名） 居住地：川崎市在住者（73.2%）、川崎市外（21.4%）、その他（5.4%） 年齢層：20歳代～70歳代以上 	<ul style="list-style-type: none"> 回答者数：1,635人（QRコードまたはHPからの回答：235人、モニター回答：1,400人） 居住地：川崎市在住者（98.3%）、川崎市外（1.7%） 年齢層：10歳代～70歳代以上
実施日	令和5年10月7日（土）、10月21日（土）、10月28日（土）	令和5年11月1日（水）～11月14日（火）
実施内容	第1回 「あったらいいな」と思う未来のミュージアムを語り合おう！ 第2回 } 新たなミュージアムに期待する声を聞かせて！ 第3回 } ※第2回と第3回は同内容だが、各回で参加者を募集した。	回答者の属性及び新たなミュージアムに求める機能・活動に関する質問（※選択式、一部自由記述あり。詳細は別紙参照。）
意見傾向	川崎市の地域、人、資源が交流・連携し、未来が育つミュージアムへの期待が集まる	収集・保存や歴史・文化の体験を共通としながら、一人ひとりの属性や関心に応じたミュージアムに期待が集まる
意見概要	<p>全体</p> <p>川崎市全体のつなぎ役、まとめ役としての新たなミュージアム 新たな発想のもと、川崎内外の人、情報、資源が交流し、楽しみ、地域や人が育っていく場としてのミュージアムを求める意見が全体に共通</p> <p>第1回</p> <p>川崎をひとつに！／一体感を強調する傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> 代表的な例として、「なないろミュージアム、7区を巡る、繋がる、近づける」や「ALL KAWASAKI」等のキャッチコピーが出た。 「誰でも集え、新生・川崎を知る、体験する、北と南のクロスポイント」となるミュージアムになって欲しいという意見が見られ、川崎市全体のつなぎ役、まとめ役としてのミュージアム機能を求める声が共通していた。 <p>第2・3回</p> <p>交流やつながり、連携、人材育成を重視。新たな展示演出に期待（分析結果のポイント）</p> <ul style="list-style-type: none"> 社会的役割や使命、魅力的な展示演出に関する発話の割合が多い 「市民参加を通じた交流やつながり、連携の創出」を最重視 「人材の獲得や育成」についても多くの意見 立地特性に関する発話は、交通アクセスの改善、周辺エリアと一体化した魅力化、ミュージアムまでの動線の魅力化、広域的な施設連携に大別 市民参加型を含めた新しい展示演出に高い期待 	<p>属性別傾向</p> <ul style="list-style-type: none"> 若年層は交流・体験・次世代育成を重視 高齢者は歴史・文化の継承・学習・活用を重視 30歳代や子どものいる人は子どもの教育や次世代の育成に関わる回答を重視 <p>質問別傾向</p> <p>新たなミュージアムについて期待する声が多く集まったものは次のとおり。</p> <ul style="list-style-type: none"> 重要な機能…「収集保存」「教育普及」 実施するプログラム…「自分のペースで鑑賞できるプログラム」「体験型のプログラム」 創出する交流機会…「体験の共有や世代を超えた交流」 活動の対象となる年齢層…「中高生」「小学生」 活動、養成の対象となる属性…「意欲や関心のある市民」 地域・社会貢献の取組 …「歴史や文化を活用したまちづくり」「地域の魅力の発信」 開設候補地をふまえて新たなミュージアムへ期待すること※ …「施設連携や回遊性向上」「ミュージアム利用における快適性、利便性」 <p>※ この問いについては、オープンハウス型説明会にてシール投票を行った。実施結果詳細については、別紙を参照。</p>
市民意見を踏まえた今後の検討	<ul style="list-style-type: none"> 市民ミュージアムが現在趣向を凝らして実施している出張事業やオンライン事業を踏まえながら、事業の具体化に向けて検討を進める。 	<ul style="list-style-type: none"> 新たなミュージアムで取り扱う分野や資料収集の考え方について、基本計画において一定の方向性を示せるよう、スピード感をもって検討を進める。 市民とミュージアムが協働して創り出すことができる「学び」の機会について、検討を進めていく。 ターゲット層を意識した取組の展開や、歴史・文化を活用したまちづくりや地域の魅力発信、誰もが居心地が良いと感じられるような空間づくりなどについての検討も進めていく。

基本計画策定に向けた市民協働（ワークショップ等）の取組結果について

2 市民ミーティング（ワークショップ）

（1）調査概要

- ①調査目的 基本計画において、より具体的なミュージアム像を市民と協働して考えていくべく、地域や市民活動の視点にも着目し、市民とともに新たなミュージアムを考える取組として市民ミーティング（ワークショップ）を実施。
- ②調査概要 1回目のワークショップは、これまでの市民ミュージアムや一般的な博物館、美術館のイメージに捉われず、「どんなミュージアムなら楽しいか」「どんなミュージアムなら行ってみたいか」「ほかの分野と連携するとどんな活動ができるか」など、自由な発想で新たなミュージアムを考える機会とした。2、3回目のワークショップは懇談会のご意見も踏まえ、市民ミュージアムのこれまでの活動や収蔵資料といった基本的な情報をワークショップ冒頭に説明を行った。そのうえで、現在川崎にはどんな課題があり、新しいミュージアムがどんな施設であればその課題を解決していくことができるかということをも具体的に考える機会とした。
- ③実施ステップ



（2）分析の概要

①第1回市民ミーティング

参加者ゆかりの地域ごとにグループをつくり、ワールドカフェ形式で議論。その結果、新たなミュージアムに求められる機能面について、地域毎の特徴がみられた。

川崎区・幸区	中原区・宮前区・高津区	多摩区・麻生区
川崎をひとつに！／一体感を強調する傾向		
「なないろミュージアム、7区を巡る、繋がる、近づける」「ALL KAWASAKI」などのキャッチコピーにもみられるように、「誰でも集え、新生・川崎を知る、体験する、北と南のクロスポイント」となるミュージアムになって欲しいという意見が見られ、川崎市全体のつなぎ役、まとめ役としてのミュージアム機能を求める声が共通していた。		
インパクト重視 「固定概念を壊しまくるとミュージアム」など、既存の発想を打ち破り、世界に発信できるミュージアムになって欲しいという、インパクト重視のアイデアが多い。	ハブ機能重視 「川崎市内外から多様な人が集い、川崎を好きになるきっかけを与える」、「あらゆる人が参加してつながる」、「地域とつながる」という、ミュージアムにつなぐためのハブ機能を備えてほしいとの意見が多い。	交通アクセス重視 交通アクセスについては、全グループ共通ともいえるが、駅周辺からミュージアムまでの動線の整備という特徴的な意見がみられた。直行バスの運行、南側からの呼び込みを、という意見もあり。

②第2・3回市民ミーティング

質的分析（QDA）※を行い、議論された内容の特徴を下表のとおり読み解いた。

※発話内容を、コーディング→焦点化→概念化という「縮約」プロセスを通じて集約し、発話内容の背景をあぶり出す手法。その方法は左下参照。自由に発言できるWSの発話内容分析においては、最適手法であり、発言の背景を読み解くことで、新しい企画の提案、イノベーションにつなげる。

QDAによるカテゴリーの全体構成

分析の結果、発話を次の7つのカテゴリーに大きく分類した。（①～⑦は発話数が多く、議論が活発であった順）中でも①と②に関する発話は、すべてのグループに見られたことから、参加者共通の関心事であったとも捉えられる。

発話カテゴリー	発話内容の概要	議論で挙げた主な期待の声
① 社会的役割や取り組むべき活動	ミュージアムに求められる役割や、それを実現するにあたり「あったらいいな」と思う活動に関する発言。	<ul style="list-style-type: none"> 市民参加を通じた交流やつながり、連携の創出 人材の獲得や育成 市内の企業との連携 地域の情報を集約する場 市民の誇りや愛着の源泉となるミュージアム
② 魅力的な展示演出	新たなミュージアムの展示やその演出方法に関する要望、希望する諸室に関する発言。	<ul style="list-style-type: none"> 見せるだけではない、飽きさせない展示手法の実践（例：「展示会の企画段階からの市民参加」等） 「修復・再生」という川崎市ならではの切り口の展示 創作活動スペースの設置とその発表機会
③ 立地特性の認識	新たなミュージアムの建設予定地の立地特性や立地を踏まえた新たなアクションに関する発言。	<ul style="list-style-type: none"> 交通アクセスの改善 周辺エリアと一体化した魅力の向上 新たなミュージアムまでの動線の魅力の向上 広域的な施設連携
④ 想定来場者像	新たなミュージアムの開設に向け、特に配慮すべき想定来場者に関する発言。	<ul style="list-style-type: none"> 年齢、障害の有無、市民が否かを問わず、誰でも行きやすいミュージアム 子どもから支持されるミュージアム
⑤ 広報・情報発信	これまでのミュージアムに関する広報課題や、新たなミュージアムに求められる広報・情報発信への要望といった発言。	<ul style="list-style-type: none"> 人々へミュージアムの情報を届けられるような戦略的な広報展開 ミュージアムの舞台裏を知ることのできる情報の発信
⑥ 周辺環境との調和	新たなミュージアムの建設予定地周辺の自然環境や生態系保全等に関する発言。	<ul style="list-style-type: none"> 周辺の自然環境に配慮した対策の検討
⑦ 魅力的な建築	新たなミュージアムの建造物・建築に対する要望や希望する建築物の方向性といった発言。	<ul style="list-style-type: none"> 鑑賞せずとも、そこで過ごしたいと思えるような居心地の良い空間 シンボル性の強いインパクトのある建物

質的分析の方法

Step1：議事録の作成

WSの議論内容を書き起こす。

Step2：オープンコーディング

書き起こされた議事録の内容から、本テーマに関するアイデア・提案、その他特徴的な発話をコード化（要約化＝オープンコーディング）。

Step3：焦点化・概念化

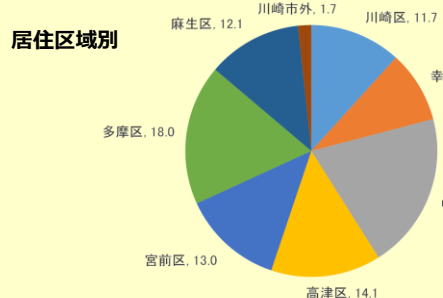
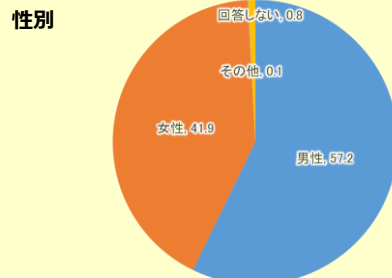
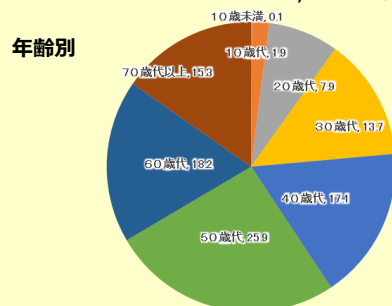
オープンコーディングされたコード内容を俯瞰し、同系列の内容をまとめる。本テーマに相応しいアイデア・提案がどのように整理できるかを検討し、その分類・構造化を図る。この作業を通じて、WSで議論された内容の特徴を読み解く。

基本計画策定に向けた市民協働（ワークショップ等）の取組結果について

3 WEBアンケート

(1) WEBアンケート調査概要

- ① 調査目的：幅広い市民の意見を収集・整理・分析し、計画に反映させるため。
- ② 調査方法：QRコードまたはHPから回答する方法と、アンケート会社に登録中のモニターの方が回答する方法の併用
- ③ 実施期間：2023年11月1日(水)～11月14日(火)
- ④ 回答者数：1,635人（QRコードまたはHPからの回答：235人、モニター回答：1,400人）
- ⑤ 回答者属性
 - ・ 年齢：10歳代～70歳代以上
 - ・ 性別：男性が57.2%とやや多い
 - ・ 居住区（地）：川崎市内7区98.3%、市外1.7%
 - ・ 子どもの有無：「子どもはいない」人は、「大学生以下の子どもはいない」を含め74.4%
 - ・ 博物館・美術館・文化芸術に対して興味・関心がある：57.3%
 - ・ 博物館・美術館を数か月に1回以上利用する：26.4%
 - ・ 文化芸術に関係する活動を普段から行っていることがある：13.6%、「ない」86.4%



参考：シール投票 実施概要

WEBアンケートの問17については、同じ問いを市内で実施されたイベントでのオープンハウス型説明会において、シール投票というかたちで意見聴取を行った。

- ① 実施目的：ミュージアムに興味関心のある方だけではなく、幅広い層の意識やニーズを明らかにするため。
- ② 調査方法：無記名シール投票（1人3票まで投票可）
- ③ 投票者：市内の区民祭や地域のイベント等の来場者
- ④ 投票者特性：イベントの特性上、家族連れの回答者が主。

出店日	イベント名（出店場所）	回答数（票）
R5.9.30	お月見フェスタ（生田緑地）	331
R5.10.8	あさお区民まつり（新百合21ホール）	287
R5.10.15	なかはら“ゆめ”区民祭（等々力緑地）	445
R5.10.15	宮前区民祭（宮前区役所）	490
R5.10.21	多摩区民祭（生田緑地）	455
R5.10.22	幸区民祭（幸区役所）	537
R5.11.3-5	かわさき市民祭り（富士通スタジアム川崎）	1,928
R5.11.12	ミライノバハレの日（登戸駅周辺）	472
シール投票合計数		4,945

(2) WEBアンケート調査結果概要 ⇒ 若年層は交流・体験・次世代育成を、高齢者は歴史・文化の継承・学習・活用を、30歳代や子どものいる人は子どもの教育や次世代の育成に関わる回答を重視する傾向がみられた。

問11 新たなミュージアムにとって重要な機能は？

「収集保存※」（38.8%） 「教育普及」（35.8%）
「調査研究」「展示公開」「交流創出」「人材育成」（25%前後）
「資料修復」と「地域貢献」（20%弱）

※「収集保存」は、博物館・美術館や文化芸術に関心のない層の回答比率も高い。

問14 新たなミュージアムの活動で力を入れるべき対象年齢層は？

「中高生」（50.8%） 「小学生」（45.0%）
「大人」（40.9%） 「若者」（38.9%）

※「小学生」「中高生」の回答比率は、博物館・美術館・文化芸術への関心や普段から行っている活動の有無に関わらず高い。

問17 開設地候補地における新たなミュージアムに期待することは？

- 「調査研究の充実」は、普段から文化芸術について活動していることがある人の回答比率が高い。
- 年齢・子どもの有無、居住区により回答比率に違いがみられ、「生田緑地内の施設の連携や回遊性の向上」は年齢が高くなるほど高く、「駅からのアクセス性の向上」は高齢層と30歳代が高い。「カフェやレストラン等の併設」は、年齢による回答比率の違いは見られない。

問12 新たなミュージアムにあるとよいプログラムは？

「自分のペースで鑑賞できるプログラム」（42.6%）
「体験型のプログラム※」（39.1%）
の回答比率が最も高い。

※「体験型のプログラム」の回答比率は年齢・性別を問わず高く、子どもの有無では子どものいる人が高い。

問15 新たなミュージアムが育成や活動支援に力を入れるべき対象は？

「文化財やその継承に関心がある人たち」（44.8%）や
「地域や社会に貢献してみたいと考える人たち」（42.1%）
「若手アーティストやアーティストを目指す人たち」（39.0%）といった、
意欲や関心のある人々の回答比率が高い。

※回答者の年齢により、その具体的対象には違いがあった。

問13 新たなミュージアムにあるとよい交流の機会とは？

「体験の共有や世代を超えた交流」※の回答比率が、
年齢や博物館・美術館・文化芸術に対する関心の有無、
博物館・美術館の利用頻度、
普段から行っている活動の有無に関わらず高い。

※「展示物に触れるなど、様々な体験・体感の機会を他の鑑賞者と共有できる機会」42.8%、「地域の郷土史や生活習慣等を地域の人や研究会の方々から子供をはじめとした様々な世代に伝え、ともに学ぶことができる機会」35.4%

問16 新たなミュージアムが取り組むべき地域・社会貢献は？

「歴史や文化を活用したまちづくり」（43.1%）
「地域の魅力の発信」（39.3%）
の回答比率が高い。

※上記の回答は、年齢が高くなるほど回答比率が高い。

調査方法	結果概要	高い回答率の項目
WEBアンケート	生田緑地内の施設連携や回遊性向上や利用における快適性、利便性の良さを求める	<ul style="list-style-type: none"> ● 生田緑地内の施設の連携や回遊性の向上(28.4%) ● 駅からのアクセス性の向上(25.7%) ● カフェやレストラン等の併設(22.1%) ● 居心地のよい空間の充実(21.6%)
シール投票	家族で気軽に訪れることができ、インタラクティブな体験のできるミュージアムを期待	<ul style="list-style-type: none"> ● 子どもも過ごせる施設（20.3%） ● カフェやレストラン等の併設（15.6%） ● 駅からのアクセスの向上(11.1%) ● 触ったり、体験・対話しながら鑑賞できる仕掛けづくり（9.5%）



シール投票の様子

シール投票参加者への缶バッジプレゼント

【参考】アンケート設問項目（抜粋）

◎ 主な設問（性別、年齢等の基礎情報に係る質問も含め、全17問で構成）

Q 普段から博物館、美術館や、歴史や文化、アートといった文化芸術に興味・関心がありますか？

Q 普段、博物館や美術館をどのくらいの頻度で利用していますか？

Q 博物館、美術館や文化芸術全般に関係する活動について、普段から行っていることはありますか？

（ある場合、それはどのようなことですか？どのような分野ですか？）

Q 「新たなミュージアム」では次のような機能を備えることを検討しています。あなたはどの機能が重要だと思いますか？

- 収集保存
- 資料修復
- 調査研究
- 展示公開
- 教育普及
- 交流創出
- 人材育成
- 地域貢献
- その他（自由にご記入ください）

Q 「新たなミュージアム」には、どのようなプログラムがあるとよいと思いますか？

- 一般向けの教養講座やワークショップ
- 小さな子ども連れで参加できるプログラム
- 平日夜間の仕事帰りに参加できるプログラム
- 展示物に触れたり、体感的な鑑賞ができる体験型のプログラム
- 学芸員や他の参加者と対話しながら見学できるプログラム
- 周りを気にせず、自分のペースで鑑賞できるプログラム
- 被災収蔵品の修復や資料のデジタル化などの活動に参加できるプログラム
- 技術指導を受けながら展示関連の作品や自分の作品が制作できるプログラム
- アーティストの作品制作に参加したり、協力できるプログラム
- その他（自由にご記入ください）

Q 「新たなミュージアム」には、どのような交流の機会があるとよいと思いますか？

- コレクション（収蔵品）を活用した鑑賞の場で、学芸員やアーティストなど対話ができる機会
- 展示物に触れるなど、様々な体験・体感の機会を他の鑑賞者と共有できる機会
- コレクションカード（収蔵品を写真にしたもの）やデジタル化されたコレクションを活用し、学芸員やアーティストから制作技法などを学ぶことができる機会
- 小さな子供連れで参加でき、絵を描いたり、音を出したりすることなどができ、自由な楽しみ方を通じて子育て世代同士で交流ができる機会
- ミュージアムに設置してある工具や3Dプリンター等を用いて、誰かと一緒に絵画や木工などの作品を作ることができる機会
- 地域の郷土史や生活習慣等を地域の人や研究会の方々から子供をはじめとした様々な世代に伝え、ともに学ぶことができる機会
- 声を出したり騒いだりしづらい館内を、夜間にパーティーなどのイベントなどで活用し、普段ミュージアムに足を運ぶことが少ない人たちと交流ができる機会
- その他（自由にご記入ください）

Q 「新たなミュージアム」は、どのような地域・社会貢献に取り組むべきだと思いますか？

- 地域の魅力の発信
- 地域のにぎわいづくり
- 地域の自然や環境保全活動
- 歴史や文化を活用したまちづくり
- アートを活用したまちづくり
- 社会問題や地域課題の解決
- 地域経済への貢献
- その他（自由にご記入ください）